

書簡・写真でみる第3代総裁 川田小一郎の素顔



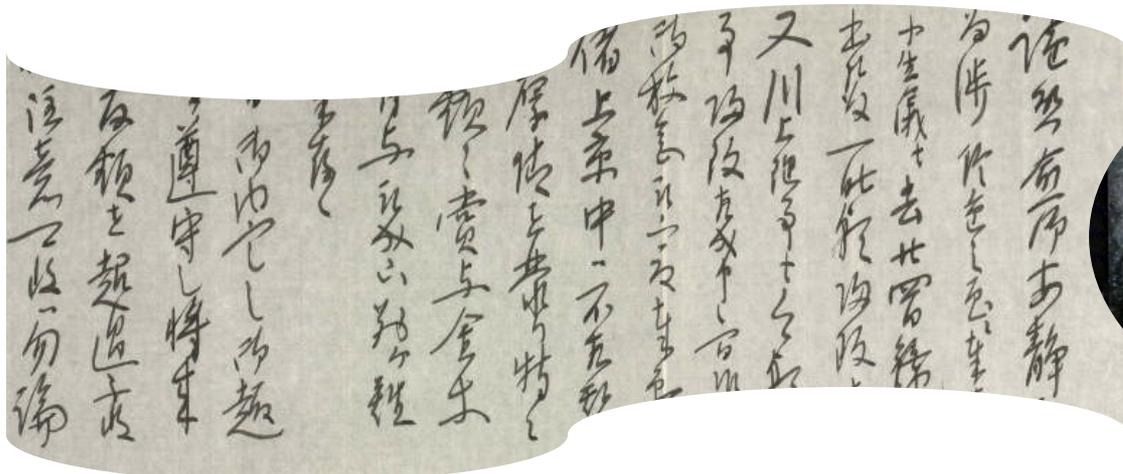
日本銀行 Bank of Japan
金融研究所アーカイブ
Archives, Institute for Monetary and Economic Studies



▲左：川田小一郎、右：妻 美津（検索番号101594、101593）
＜明治20年代に撮影＞

* 画像をクリックすると資料のページが開きます。

日本銀行**第3代総裁**の川田小一郎は、草創期の日本銀行および明治期の日本経済において多くの功績を残した人物です。2020年は、川田の**没後125年忌**にあたり、また川田が岩崎弥太郎の下で創業時に心血を注いだ**三菱グループの創業150周年**にあたります。この機会に、当アーカイブが保存する川田に関する**書簡類や写真**の一部を紹介し、功績を振り返るとともに、妻の美津はじめ家族とのやり取りを含むプライベートな一面をみていきましょう。



日銀総裁としての功績



川田は、日本銀行第3代総裁（1889～1896年）として、日清戦争前後の経済運営に力を振るいました。また、本館の建築や支店網の整備などに尽力したほか、人材登用の面においても多くの功績を残しました。

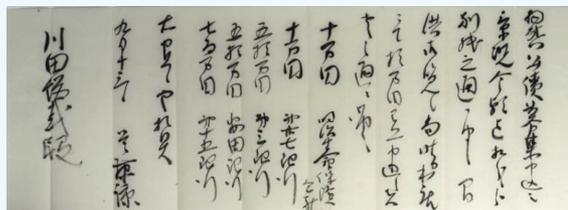
今回は、そのうち建築家の辰野金吾や建築事務主任として登用した高橋是清らによって完成にこぎ着けた日本銀行本館建築時の写真、日清戦争時の軍事公債の金融機関による引き受け状況の報告、大阪支店長からの業務報告などを紹介します。

▼ 画像リンクをクリックすると、各資料のページが開きます。



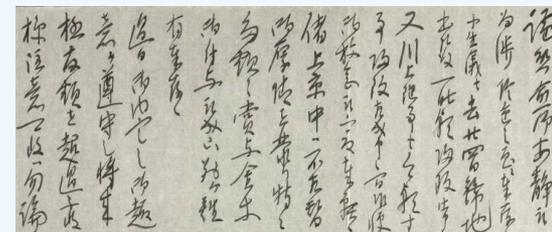
検索番号8925『日本銀行新築場沿革図』
1890～1896年

日本銀行の本館は1890年9月に起工。施工の間、濃尾地震や日清戦争など国内外を揺るがした出来事がありましたが建築は続けられ、1896年2月に竣工しました。画像は起工後約5年を経過した新築場の写真です。



検索番号101566『書簡（首藤諒から川田小一郎宛）』
1894年

1894年8月の日清戦争開戦後、国内では直ちに戦費を調達するために第1回の軍事公債募集が行われています。画像は、10万円以上の公債を引き受けた金融機関について、理事の首藤諒が川田に報告したものです。



検索番号101577『書簡（鶴原定吉から川田小一郎宛）2』
1894年

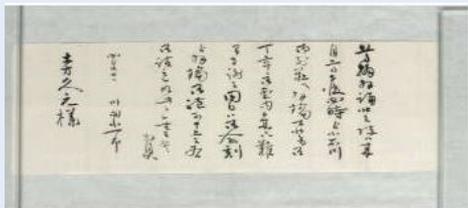
鶴原定吉は、1892年6月に外務省を退官し同月日本銀行に入行、翌年には大阪支店長に就任した人物です。書簡は、民間銀行とのコルレス取引や、首相や蔵相を歴任した松方正義が川田との面会を希望している旨を伝える内容です。

ゆかりの人びと

▼ 画像リンクをクリックすると、各資料のページが開きます。

川田は政財界を問わず交際範囲が広がったことはよく知られています。

今回は、その中でもとりわけ川田と関係の深かった政財界人3人から川田に宛てた書簡を紹介します。



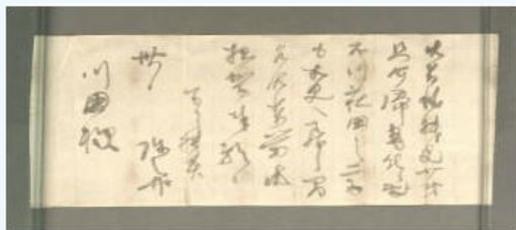
検索番号101544『書簡（川田小一郎から土方久元宛）』
年未詳

土方久元は川田と同じ土佐藩郷士の出身で3歳年上。1863年の「八月十八日の政変」では三条実美らの七卿落ちに随行した人物です。明治維新後は農商務大臣や宮内大臣を歴任します。書簡は土方の小石川別荘への招待に対して川田が了承する旨を伝える内容です。



検索番号101553『書簡（山脇正勝から川田小一郎宛）』
年未詳

山脇正勝は桑名藩出身で旧幕側として函館戦争まで従軍した人物です。明治維新後は、米国留学を経て三菱グループに入社し、長崎造船所支配人と高島炭鉱事務長を兼務しています。書簡では、長崎の高島炭鉱や中ノ島炭鉱の出炭状況の報告、造船所の多忙な様子などを川田へ率直に語っています。



検索番号101582『書簡（岩崎弥之助から川田小一郎宛）1』
年未詳

岩崎弥之助は三菱グループ創業者、岩崎弥太郎の弟で2代目総帥として川田とともに同グループを支えました。岩崎は川田の後任として第4代日本銀行総裁に就任しています。書簡は、岩崎宅に同じく経営メンバーであった石川七財と荘田平五郎が訪れるので、川田にも来訪するよう願ったものです。



検索番号101583『書簡（岩崎弥之助から川田小一郎宛）2』
年未詳

岩崎弥之助から川田に宛てた書簡です。内容は、自身の病状が回復に向かっていることを報告し、川田へ引き続き仕事の遂行を依頼したものです。岩崎が不在の間の仕事の進め方などについて、細かなやり取りを交わっていた様子が窺えます。

家族



川田には妻の美津と七男六女合わせて13人の子供がいました。中でも長男の龍吉は北海道の地で近代農業の発展に後半生を捧げ、「男爵薯」を普及させた人物です。

今回は、川田家の家族一同が揃っている写真と、龍吉と三男の豊吉から川田へ宛てた書簡を紹介し
ます。

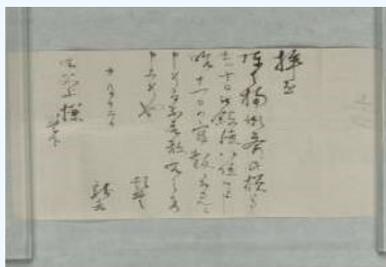
▼ 画像リンクをクリックすると、各資料のページが開きます。



川田家家族写真

検索番号101593 『川田小一郎関係写真アルバム』
年未詳

1897年頃に撮影されたものと思われる川田の妻や子息・子女ら家族一同が揃った写真です。写真には、前列から2列目のむかって左から3人目に妻の美津がおり、最上段にはむかって左から順に三男の豊吉、長男の龍吉、次男の為吉が確認できます。



検索番号101550 『書簡（川田龍吉から川田小一郎宛）』
1894年

川田龍吉は川田家の長男で、英国留学を経た後に、三菱製鉄所の機械士として三菱グループに迎えられます。龍吉は後に、北海道にわたり農場経営を展開し、やがて「男爵薯」を普及させます。書簡は義父の叙位が官報に掲載されたことを川田に知らせたものです。



検索番号101549 『書簡（川田豊吉から川田小一郎宛）』
1893年

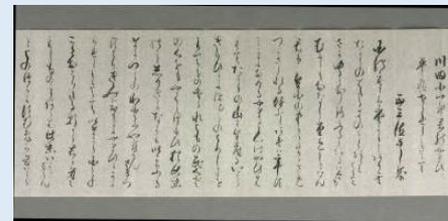
川田豊吉は川田家の三男で、書簡を作成した当時は東京帝国大学工学部機械学科の学生でした。書簡は、京都に滞在している家族の暮らしの様子や豊吉が京都で見聞きしたこと、感じたことなどを東京にいる川田にむけて詳しく知らせる内容となっています。

人柄



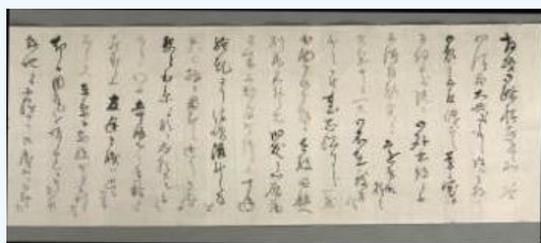
川田は様々な人に慕われる人物でした。
今回は、川田が病気を患い平癒した際、これを祝った郷純造からの書簡と、旧薩摩藩士の再就職に関する与倉守人との書簡を紹介します。

▼ 画像リンクをクリックすると、各資料のページが開きます。



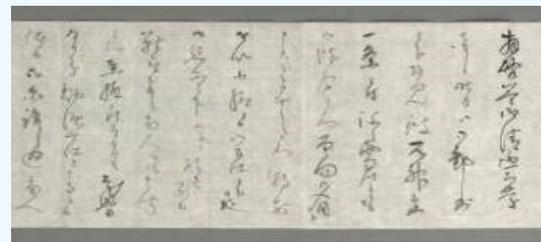
検索番号101567『書簡（郷純造から川田小一郎宛）』
1894年

郷純造は元幕臣で、明治維新後は新政府に入り大蔵大輔（おおくらたいふ。当時の大蔵省の次官職）を務め、退任後は貴族院議員となった人物です。書簡は「川田小一郎君のやまび平癒をうれしくききて」から始まるもので、当時始まっていた日清戦争における旅順口戦勝の報告と合わせて川田の平癒を祝ったものです。



検索番号101571『書簡（与倉守人から川田小一郎宛）1』
年未詳

与倉守人は大蔵省常平局長（米穀の出納事務等を行う部局長）、金庫局長を経て日本銀行に入り、理事を務めた人物です。書簡は、与倉の旧友で老年の元薩摩藩士について再就職の面倒をみてほしいと、川田に願う内容となっています。



検索番号101572『書簡（与倉守人から川田小一郎宛）2』
年未詳

書簡は元薩摩藩士が無事に再就職できたことに対してのお礼を記したものです。元薩摩藩士も老骨ではあるが勉強するとやっているかと伝えています。